



学校目標 ふるさとを愛し、共に学び、心豊かにたくましく生きる「仁比山っ子」の育成

にこにこ笑顔であいさつ いっしょうけんめい無言で掃除をする やさしさいっぱいなかよくする子
まじめにこつこつ勉強する子 〇 こころと体をきたえ 進んで勉強する子

伊東玄朴布芝居

8月30日(金)竹の会の皆様(神埼退職女性教師の会)方による「手作りの布芝居」の読み聞かせがありました。総合学習で伊東玄朴について学習をしている、4年生の子どもたち対象に、“伊東玄朴ものがたり”の読み聞かせをしていただきました。

竹の会の皆様は、子どもたちに分かりやすいストーリーを考え、それぞれの話に合う場面の構図を考え、その構図に合うように布を縫い付けて布芝居を作られ(縦80cm×横100cm)しました。手作りの温かさや優しさに溢れている布芝居の作成には2年もかかったそうです。子どもたちは、布の絵を見たり話し手の方を見たりしながらも、集中して話に入り込んでいました。この布芝居により、伊東玄朴の幼少期から医者を目指すきっかけ、努力の足跡、苦労などをしっかり心に刻みつけることができる時間でした。本当に貴重で素晴らしい布芝居に触れることができました。ありがとうございました。



伊東玄朴は、幕末、長崎の鳴滝塾でシーボルトにオランダ医学を学び、日本で最初に天然痘を予防するための種痘を導入、また現在の東京大学医学部となった西洋医学書の創設など、近代医学に多大な貢献をした人です。また、オランダ医学としては初めて將軍の侍医となり、名実ともにオランダ医学の頂点に立った人物でもあります。伊東玄朴旧宅は、玄朴が漢方医であった20歳の時(1821年)に建てた家で、昭和48年(1973年)に佐賀県史跡に指定されました。旧宅内には玄朴自身が翻訳したオランダの書物「医療正始」や江戸時代末期の医学書、師を務めた蘭学塾「象先堂」のパネル写真などを展示、200年前に建てられた屋内で、ゆっくりと当時を偲ぶことができます。(神崎市観光協会HPより)

能楽教室

9月5日(木)に神崎市能楽教室が開催されました。会場のはんぎょホールには全国でも珍しい能舞台があります。その舞台で能楽を学んでいる子供たちが能を舞いました。本校からは1名の子供が晴れ舞台上で披露しました。

能楽教室には5・6年生の子供たちも参加しました。クイズに参加したり、代表の児童と島教諭が能面体験したりしました。本物の「屋島」、「船弁慶」の仕舞もあり、世界最古の伝統芸能である能の奥ゆかしさにふれることができました。



6年 井上瑞葉さん